

[A年] 聖霊降臨節第18主日(2021年9月19日)**【旧約聖書日課】 出エジプト記20章1～17節**

1神はこれらすべての言葉を告げられた。
 2「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。
 3あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない。
 4あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。5あなたはそれらに向かってひれ伏したり、それらに仕えたりしてはならない。わたしは主、あなたの神。わたしは熱情の神である。わたしを否む者には、父祖の罪を子孫に三代、四代までも問うが、6わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、幾千代にも及ぶ慈しみを与える。
 7あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。みだりにその名を唱える者を主は罰せずにはおられない。
 8安息日を心に留め、これを聖別せよ。9六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、10七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。11六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである。
 12あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることが出来る。
 13殺してはならない。
 14姦淫してはならない。
 15盗んではならない。
 16隣人に関して偽証してはならない。
 17隣人の家を欲してはならない。隣人の妻、男女の奴隷、牛、ろばなど隣人のものを一切欲してはならない。」

【使徒書日課】 エフェソの信徒への手紙5章1～5節

1あなたがたは神に愛されている子供ですから、神に倣う者となりなさい。2キリストがわたしたちを愛して、御自分を香りのよい供え物、つまり、いけにえとしてわたしたちのために神に献げてくださったように、あなたがたも愛によって歩みなさい。3あなたがたの間では、聖なる者にふさわしく、みだらなことやいろいろの汚れたこと、あるいは貪欲なことを口にしてはなりません。4卑しい言葉や愚かな話、下品な冗談もふさわしいものではありません。それよりも、感謝を表しなさい。

5すべてみだらな者、汚れた者、また貪欲な者、つまり、偶像礼拝者は、キリストと神との国を受け継ぐことはできません。このことをよくわきまえなさい。

【福音書日課】 マタイによる福音書19章13～30節

13そのとき、イエスに手を置いて祈っていたために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。14しかし、イエスは言われた。「子供たちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。天の国はこのような者たちのものである。」15そして、子供たちに手を置いてから、そこを立ち去られた。
 16さて、一人の男がイエスに近寄って来て言った。「先生、永遠の命を得るには、どんな善いことをすればよいのでしょうか。」17イエスは言われた。「なぜ、善いことについて、わたしに尋ねるのか。善い方はおひとりである。もし命を得たいのなら、掟を守りなさい。」18男が「どの掟ですか」と尋ねると、イエスは言われた。「『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、19父母を敬え、また、隣人を自分のように愛しなさい。』」20そこで、この青年は言った。「そういうことはみな守ってきました。まだ何か欠けているのでしょうか。」21イエスは言われた。「もし完全になりたいのなら、行って持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」22青年はこの言葉を聞き、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。
 23イエスは弟子たちに言われた。「はっきり言うておく。金持ちが天の国に入るのは難しい。24重ねて言うが、金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」25弟子たちはこれを聞いて非常に驚き、「それでは、だれが救われるのだろうか」と言った。26イエスは彼らを見つめて、「それは人間にできることではないが、神は何でもできる」と言われた。27すると、ペトロがイエスに言った。「このとおり、わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました。では、わたしたちは何をいただけるのでしょうか。」28イエスは一同に言われた。「はっきり言うておく。新しい世界になり、人の子が栄光の座に座るとき、あなたがたも、わたしに従って来たのだから、十二の座に座ってイスラエルの十二部族を治めることになる。29わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子供、畑を捨てた者は皆、その百倍もの報いを受け、永遠の命を受け継ぐ。30しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。」

「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

出エジプト記20章1～17節

1それから神は、これらすべての言葉を告げられた。

2「私は主、あなたの神、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である。3あなたには、私をおいてほかに神があってはならない。4あなたは自分のために彫像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水にあるものの、いかなる形も造ってはならない。5それにひれ伏し、それに仕えてはならない。私は主、あなたの神、妬む神である。私を憎む者には、父の罪を子に、さらに、三代、四代までも問うが、6私を愛し、その戒めを守る者には、幾千代にわたって慈しみを示す。

7あなたは、あなたの神、主の名をみだりに〔直訳→空しいことのために〕唱えてはならない。主はその名をみだりに唱える者を罰せずにはおかない。

8安息日を覚えて、これを聖別しなさい。9六日間は働いて、あなたのすべての仕事をしなさい。10しかし、七日目はあなたの神、主の安息日であるから、どのような仕事もしてはならない。あなたも、息子も娘も、男女の奴隷も、家畜も、町の中にいるあなたの寄留者も同様である。11主は六日のうちに、天と地と海と、そこにあるすべてのものを造り、七日目に休息された。それゆえ、主は安息日を祝福して、これを聖別されたのである。

12あなたの父と母を敬いなさい。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えてくださった土地で長く生きることができる。

13殺してはならない。

14姦淫してはならない。

15盗んではならない。

16隣人について偽りの証言をしてはならない。

17隣人の家を欲してはならない。隣人の妻、男女の奴隷、牛とろばなど、隣人のものを一切欲してはならない。」

エフェソの信徒への手紙5章1～5節

1ですから、神に愛された子どもとして、神に倣う者となり、2愛の内に歩みなさい。キリストも私たちを愛して、ご自分を宥めの香り〔直訳→かぐわしい香り〕の供え物、また、いけにえとして、私たちのために神に献げてくださったのです。3聖なる者にふさわしく、あなたがたの間では、淫らなことも、どんな汚れたことも、貪欲なことも、口にしてはなりません。4恥ずべきこと、愚かな話、下品な冗談もふさわしくありません。むしろ、感

謝の言葉を口にしなさい。5すべて淫らな者、汚れた者、貪欲な者、つまり、偶像礼拝者は、キリストと神との国を受け継ぐことはできません。このことをよくわきまなさい。

マタイによる福音書19章13～30節

13そのとき、イエスに手を置いて祈っていたために、人々が子どもたちを連れて来た。弟子たちはこの人々〔直訳→子どもたち〕を叱った。14しかし、イエスは言われた。「子どもそのままにしておきなさい。私のところに来るのを妨げてはならない。天の国はこのような者たちのものである。」15そして、子どもたちに手を置いてから、そこを立ち去られた。

16すると、一人の人がイエスに近寄って来て言った。「先生、永遠の命を得るには、どんな善いことをすればよいのでしょうか。」17イエスは言われた。「なぜ、善いことについて、私に尋ねるのか。善い方はおひとりである。命に入りたいと思うなら、戒めを守りなさい。」18彼が「どの戒めですか」と尋ねると、イエスは言われた。「『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、19父と母を敬え、また、隣人を自分のように愛しなさい。』」20この青年は言った。「そういうことはみな守ってきました。まだ何か欠けているのでしょうか。」21イエスは言われた。「もし完全になりたいのなら、行って持ち物を売り、貧しい人々に与えなさい。そうすれば、天に宝を積むことになる。それから、私に従いなさい。」22青年はこの言葉を聞き、悩みつつ〔直訳→悲しみながら〕立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。

23イエスは弟子たちに言われた。「よく言うておく。金持ちが天の国に入るのは難しい。24重ねて言うが、金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通るほうがまだ易しい。」25弟子たちはこれを聞いて非常に驚き、「それでは、誰が救われることができるのでしょうか」と言った。26イエスは彼らを見つめて、「それは人にできないが、神には何でもできる」と言われた。27その時、ペトロがイエスに言った。「このとおり、私たちは何もかも捨ててあなたに従って参りました。では、私たちは何をいただけるのでしょうか。」28イエスは一同に言われた。「よく言うておく。新しい世界になり、人の子が栄光の座に着くとき、私に従って来たあなたがたも、十二の座に着いて、イスラエルの十二部族を裁くことになる。29また、私の名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、畑を捨てた者は皆、その百倍もの報いを受け、永遠の命を受け継ぐ。30しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。」

黙想のためのノート**次主日教会暦と聖書日課について**

・9月19日「聖霊降臨節第18主日」の日課主題は「新しい戒め」。旧約聖書日課は、「出エジプト記」から、イスラエルの民と共にエジプトを出たモーセがはじめに向かったシナイ山で神から授けられた「十の戒め」の箇所。使徒書日課は、「エフェソの信徒の手紙」から、キリストに結ばれて新しくされた「神の子」として神に倣う新しい生き方をすべきことを教える箇所の一部。福音書日課は、「マタイによる福音書」から、「子供を祝福する主イエス」から「金持ちの青年との問答」に至る一連の逸話の箇所。

旧約日課(出エジプト 20章より)

・「出エジプト記」は、ヘブライ語正典「律法」(モーセ五書)の第二巻、「モーセの出エジプト物語」を取り上げる最初の文書で、モーセ誕生物語から始まり、シナイ山で神から「律法」を授けられて契約を結び、荒野の旅に向けて「幕屋」を建造するという出来事までが描かれている。

・日課箇所は、シナイ山でモーセが最初に神から授けられたとされる「十の戒め」の箇所。ただし、ここに「戒め」等に相当する語は用いられておらず、単に「言葉／出来事(ダーバル)」という語が動詞と名詞で用いられている。それに対して、後段の21~23章に記される一連の規則は「法(ミシュパト)」という語で提示されている(21:1)。これらを受けた24章では、「モーセは戻って、主のすべての言葉とすべての法を民に読み聞かせ…」(24:3)と総括されている。一方、同じ「十の戒め」を伝える「申命記」5章では、「今日、わたしは掟と法を語り聞かせる」(5:1)と始められており、「出エジプト記」が「言葉(ダーバル)」としている事柄を「掟(コーケ)」で置き換えている。「出エジプト記」で繰り返し出てくる「掟の箱」や「掟の板」の「掟」は「エドウト」の訳語で、「コーケ」は「掟」または「定め」と訳されている。なお、「十の戒め」という表現は、出34:28「モーセは…十の戒めからなる契約の言葉を板に書き記した」から取られているが、この「戒め」は「証し」なども訳される「エドウト」の訳。「新共同訳」では、一連の訳語が一对一で対応していない。

・「十の戒め」を、どのような十項目として理解するかは、教派の伝統によって異なる。一般的には、3節を第一項として「新共同訳」の改行どおりに十項目とするが、ローマ・カトリック教会とルーテル教会では、4節(偶像礼拝の禁止)を3節の一部とみなす一方、17節を「隣人の妻」と「隣人の財産」に分割して二項目とすることで十項と数える習慣がある。

・「十の戒め」は、「律法(トーラー)」の中心とみなされてきたが、「法(ミシュパト)」などの呼び名でまとめられてきた諸規定とは明らかに区別され、「神の言葉＝出来事(ダーバル)」を象徴するものとして提示されている。この点では、「教え」と訳される「トーラー」に近い。

使徒書日課(エフェソ5章より)

・「エフェソの信徒への手紙」は、使徒パウロの書簡の一つで、エフェソ教会に宛てられている。現代の歴史批評に立つ新約学者は本書簡をパウロの真筆と認めず、「第二パウロ書簡」と分類する傾向にあるが、論拠としているのは、他のパウロ書簡と比較した用語法や主題とする神学思想の相違といったことであり、必ずしも蓋然性の高い主張とは言えない。本書簡は、「コロサイの信徒への手紙」との共通性が多々指摘されるが、コロサイとエフェソはどちらもアジア州(アナトリア半島西端のエーゲ海に近い地域)に位置する近隣都市で、文化的背景が近く、相互の交流も比較的盛んであったと考えられるので、パウロが書簡執筆に際して両教会に共通した課題を念頭に置いていたであろうことは容易に想像される。「コロサイの信徒への手紙」には近隣教会間で書簡を回覧するようにとの指示も記されており(コロ4:16)、本書簡も、たとえ指示がなくても回覧されることを前提に執筆されたと考えられる。また、「コロサイの信徒への手紙」の末尾にもあるように、パウロ書簡の本文執筆は、パウロ自身の筆によってではなく、代筆者の手によって書かれることが通例であったと考えられるので、書簡によっては代筆者の語彙が反映されることもあったと推認されるのである。

・エフェソの教会や宣教については、「使徒言行録」中に詳しく描かれている(使徒18~20章)。おそらく、1世紀のエーゲ海周辺のキリスト者集団の中で非常に重要な役割を果たしていた教会の一つであったと考えられる。

・本書簡で、パウロは、キリストがあらゆる敵意と隔ての壁を取り除く存在として働かれるので、キリストにあって一つであることを何よりも大切にしようと強く主張している。そのことを表現する用語として「キリストの体」を用いるが、これは、「コリントン信徒への手紙一」12章で用いられて構想されているような地域教会の団体としての有機的な一致を促す「たとえ」にとどまらず、宇宙論的な救済の完成形としてのイメージで語られており、その後の教会史における「普遍的(公同)教会」観の一つの土台となっている。この宇宙論的「キリストの体」観によって、キリストに結ばれた信仰者一人ひとり皆等しく、神の高みへと引き上げられるようにされているので、「神の子」として神に似た姿とされていくことを何よりも求めるようにと勧められている。そこで、「コリントの信徒への手紙一」で見られるような多様性の意義の強調、意識的な相互受容などは、前面に現れてこない。これは、エフェソ教会が周辺地域の諸教会を一つに束ねていく中心教会としての役割を期待されており、「一致の象徴」としての教会であることが一つの使命として考えられていた、ということによるのかもしれない。

・「倣う者(ミメータイ)」は、パウロが好む用語で、「神に倣う」のほかに「わたしに倣いなさい」とも言う。

福音書日課(マタイ 19 章より)

・日課箇所は、共観福音書に共通する「主イエスが子供を祝福し、金持ちの青年と対話をする一連の逸話と弟子たちへの教え」の箇所。

・「子供を祝福する」(13~15 節)の箇所と、「金持ちの青年」の後半(23~30 節)には、「天の国」の一貫した主題が見て取れ、これは「天の国」ではなく「神の国」の用語を用いる共観福音書でも同様である。主イエスに祝福していただくために連れて来られる子どもたちを指して「天の国はこのような者たちのものである」と宣言されたことに対して、成人である弟子たちにとってそれが必ずしも容易なこととして受け留めえないことを踏まえて、それを可能にされるのが「人ではなく神」であると宣言される。この枠組みに、「金持ちの青年」の逸話が組み合わされることによって、神が可能にしてください「天の国に入ることのできる子供」になる道が、神の掟(戒め)に従い、自分の持ち物を捨てて人に与えることにありと示される。「マタイ福音書」は、このことをより明瞭に示すことを意図してか、本来であれば「神の掟(十戒)」に並んで挙げられていない「また、隣人を自分のように愛しなさい」(19 節)を主イエスの言葉として付加し、この「自分を捨てて施す行為」が「隣人を愛すること」の具体的な実践であることを強調している。さらに「マタイ福音書」は、そのような実践をする者が得る「報酬」について、「マルコ福音書」や「ルカ福音書」とは異なる強調をして、「あなたがたも…イスラエルの十二部族を治めることになる」(28 節)と加えている。

・「金持ちの青年」と主イエスの対話場面で、最初に主イエスに尋ねる青年の問いは、「マルコ福音書」および「ルカ福音書」の並行箇所から変更されている。すなわち、「マルコ」および「ルカ」が、「善い先生」と呼びかけて「永遠の命を受け継ぐには何をすればよいか」と問うたとしているのに対して、「マタイ」は、ただ「先生」と呼びかけて「永遠の命を得るには、どんな善いことをすればよいか」と問うたとしている。「マルコ」や「ルカ」がただ「永遠の命」を得るために必要な実践を問うただけなのに対して、「マタイ」は、問いの焦点がより明瞭で、実践すべき「善いこと(アガソス)」の中身を問うているのである。これに連動するように、「マルコ」と「ルカ」では「善い先生」と呼びかけているのに対して、「マタイ」では単に「先生」と呼びかけたことになっている。そして、主イエスの応答もそれに応じて焦点が変更され、「マルコ」や「ルカ」では、神を差し置いて主イエスを「善い者」とすることを咎めているのに対して、「マタイ」ではそのことは咎められず、問題を、「善いこと」の源泉がどこにあるのかという点に変更している。「善い(アガソス)」は「マタイ」が好む神と神に従う者に共通する属性で、救われた弟子としての実践に関心を向ける「マタイ」では、これを神のみの属性として強調する理由はないのであろう。

来週の誕生日 (9月19日~25日)

主日礼拝の讚美歌から

- ・21-364 番「いのちと愛に満つ」は、20 世紀後半の代表的な讚美歌作家レンの作詞。当初、従来の神観にとらわれない斬新な表現が物議を醸し、1987 年の合同メソジスト讚美歌集改訂版では不採用とされた経緯があるが、その後、多くの教派讚美歌集で採用されてきた。作曲のヤングは、米国を代表する教会音楽家・作曲家で、合同メソジスト教会の讚美歌編集に二度携わっている。
- ・21-509 番「光の子になるため」は、米国聖公会信徒の女性教会音楽家トマーソンの作詞作曲。1966 年夏の異常な猛暑の中で着想された。
- ・21-549 番「わたしたちを造られた神よ」は、金城教会信徒の棚橋峯子の作で、公募により採用。『讚美歌 21』ではこの歌詞に二つの曲を付しているが、549 番は、阿佐ヶ谷東教会信徒・岸一隆がキリスト教音楽講習会讚美歌創作クラスで作曲したもの。

21-364「いのちと愛に満つ」

Bring Many Names

1. Bring many names, beautiful and good, / celebrate, in parable and story, / holiness in glory, living, loving God. / Hail and hosanna! Bring many names!
2. Strong mother God, working night and day, / planning all the wonders of creation, / setting each equation, genius at play: / Hail and hosanna, strong mother God!
3. Warm father God, hugging every child, / feeling all the strains of human living, / caring and forgiving till we're reconciled: / Hail and hosanna, warm father God!
4. Old, aching God, grey with endless care, / calmly piercing evil's new disguises, / glad of good surprises, wiser than despair: / Hail and hosanna, old aching God!
5. Young, growing God, eager, on the move, / saying no to falsehood and unkindness, / crying out for justice, giving all you have: / Hail and hosanna, young, growing God!
6. Great, living God, never fully known, / joyful darkness far beyond our seeing, / closer yet than breathing, everlasting home: / Hail and hosanna, great, living God!

21-509「光の子になるため」

I want to walk as a child of the light

1. I want to walk as a child of the light; / I want to follow Jesus. / God set the stars to give light to the world; / The star of my life is Jesus.
[Refrain] In him there is no darkness at all; / The night and the day are both alike. / The Lamb is the light of the city of God; / Shine in my heart, Lord Jesus.
2. I want to see the brightness of God; / I want to look at Jesus. / Clear Sun of righteousness, shine on my path, / And show me the way to the Father.
3. I'm looking for the coming of Christ; / I want to be with Jesus. / When we have run with patience the race, / We shall know the joy of Jesus.